

第1回大幡作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月9日 18時～19時30分

開催場所: 大幡コミュニティセンター 集会室

参加者数

Aグループ	Bグループ	Cグループ
5	5	5

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者から、自己紹介とともに自身が携わっている地域活動の詳細が共有された。
- グループワーク①
ファシリテーターの説明の後、参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにしたカードに書き出す作業を促しました。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出しました。
- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行いました。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化しました
- 他グループとの共有:
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。

- 地域の環境（買い物が便利、福祉施設が多い）、災害が少ない、若い人が多いなどが出されました。
- グループワーク②:
住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は必要な施設やサービスについて意見を出し合いました。子ども食堂、高齢者が集まれる場所などの意見が出されました。
- 続いて、参加者に、近隣に住む住民の構成について、高齢者、子育て世代、共働き世帯、外国人住民といった多様な属性を挙げてもらいました。
- 参加者から、住民構成として高齢者、子供、外国人、移住者が多い点を挙げました。また、理想とする地域として、子供が安心して育てる環境、高齢者を支援できる体制、困った時に相談できる関係性、災害リスクの低さ、および祭りなどを通じた地域コミュニケーションの活性化を提案しました。
- 参加者から、住民として福祉関係施設の関係者や、地元以外の出身者、高齢者、若年層を挙げました。理想とする環境として、日常的な買い物や医療の利便性、安全のための街灯整備、大きな公園の設置、鉄道の利用、そして多世代が集まれる交流拠点の必要性を指摘しました。
- 参加者から、住民の多様性を認識した上で、相互に相談し合える生活環境の構築を重視しました。具体的には、大人から子供への声掛けによる安心感の醸成、通学路の安全性向上（信号や歩道の整備）、および民生委員の活動などを通じて、地域住民間の認知と協力体制を強化したいという意見が出されました。
- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。